

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2017) 第17巻:72-73.

平成27年度「独創性のある生命科学研究」個別研究課題 22)心房細動患者における脳微小出血と無症候性脳梗塞

齋藤 司

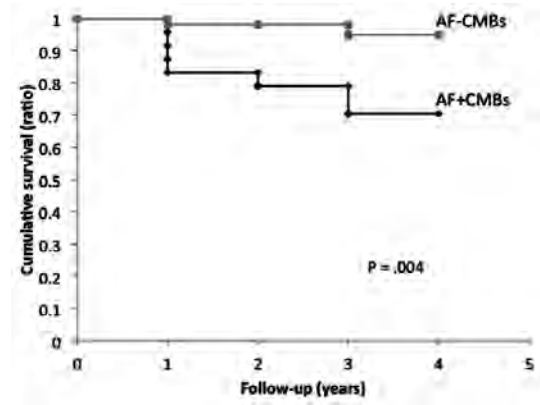


図 1 脳微小出血の出現

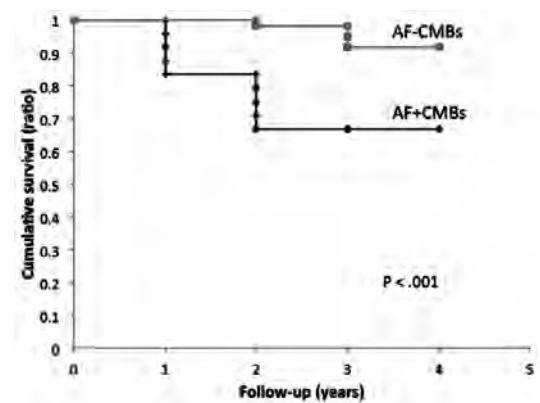


図 2 無症候性脳梗塞の出現

22) 心房細動患者における脳微小出血と無症候性脳梗塞

Cerebral microbleeds and asymptomatic cerebral infarctions in patients with atrial fibrillation

研究代表者 齋藤 司

【目的】

近年、脳MRI T2*を用いて、脳小血管病の存在を示す脳微小出血の検出が可能である。心房細動が脳微小出血を惹起しやすいか否か、また脳微小出血の存在が脳小血管病の進展を予測するか否か調べることを目的とした。

【方法】

当院循環器科外来に通院中の非弁膜症性心房細動患者131例と正常対照群112例にT2*を撮影し比較した。77例の心房細動患者を4年以上前向きにT2*を撮影し追跡した。

【結果】

脳微小出血は正常対照群に比べ心房細動患者において有意に検出されやすかった。初回T2*で脳微小出血が認められた心房細動患者群は、認められなかった群に比べて有意にその後脳微小出血(図1)と無症候性脳梗塞(図2)を呈しやすかった。多変量解析により、初回T2*での脳微小出血はハザード比6.27(p=0.015)で脳微小出血を増加させることが明らかになった。

【考察】

心房細動自体がなぜ脳小血管病を引き起こすかについては、血圧の易変動性や炎症惹起を想定しており、

今後も研究を継続し明らかにしていきたいと考えている。